

WEEKLY REPORT

例会日 木曜日 12:30~13:30

例会場 上野精養軒 TEL.03 (3821) 2181

事務所 〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-1-5 Aビル 6F

TEL.03 (5637) 4602 FAX.03 (5637) 4611

<http://www.tokyo-kohoku-rc.org>



葛飾北斎描く千住より眺望の富士

東京江北ロータリークラブ



会長 鈴木又右衛門／会長エレクト 羅山能弘

幹事 松井元／副幹事 細沼謙久

会報・IT委員長 張替俊光

Rotary



親睦を深めて
ロータリーを楽しもう

R C 会長
鈴木又右衛門

持続可能な
インパクトを
生み出そう

CREATE LASTING
IMPACT
TREAT
LASTING IMPACT

R I 会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ

第 3132 回 2026 年 10 月 1 日

Rotary Rate 未定

2026 年 9 月 17 日 第 3131 回例会報告

点 鐘

ロータリーソング 「我等の生業」

来 賓

● ゲスト

瀬田章弘氏 (ゲストスピーカー)

● ビジター

小泉泰志氏 (東京銀座)

セ レ モ ニ ー

● なし

会 長 報 告

● なし

幹 事 報 告

- 本日、2026-27年度 本予算表を例会場ポストに投函しました。
- 10月29日 (木) はオープン例会です。皆様のお知り合いをお誘いいただき、当クラブの魅力を知っていただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

委 員 会 報 告

- ロータリー情報委員会…10月22日 (木) 例会後、ロータリー情報委員会主催の勉強会を開催いたします。

入会 5 年未満の方は、必ず御出席ください。講師は張替さんです。

- 雑誌広報委員会…9 月号「ロータリーの友」では、ロータリーのブランドについて考えるという特集が組まれております。印象に残った記事が2つあります。1. 大阪東ロータリークラブの職業奉仕をテーマにしたオリジナルソングの紹介で、公への奉仕や若い世代への力添えなど、ロータリー精神を端的に表した歌詞が心に残りました。2. 丸亀ロータリークラブの横田さんの「ロータリーの友からロータリーを考える」という記事です。ロータリーの質と量、奉仕の原点、そして環境問題など広い視野での奉仕の重要性が語られていました。巨大な組織であっても、一人ひとりの意思と行動の積み重ねが基盤であることを改めて示しています。ロータリーの 100 年以上の歩みを理解し、他クラブの活動や「ロータリーの友」から学びを得て、より良い活動につなげていくことが大切だと感じています。諸先輩のご指導をいただきながら、クラブとして成長していきたいという思いです。

出 席 報 告 会員42名中30名 出席率71%

Remote1 名 (含)

前々回の出席率 88.10% (8/6)

THE ROTARY CLUB OF TOKYO-KOHOKU

ニコニコ（●^o^●）ボックス

- 100%出席祝 …なし
- 会員誕生日祝 …飛田君 彌勒地君
- 配偶者誕生日祝 …吉田（正）君
- 結婚記念日祝 …なし
- **鈴木会長 松井幹事**…瀬田様、本日はご来会いただきありがとうございます。卓話楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。
- **渡邊君 中山君 影山君 岩崎君**…瀬田さん、本日は卓話講師をお引き受けいただき誠にありがとうございます。印刷業界の密のお話を楽しみにしています。
- **羅山君 細沼君**…明後日の土曜日からシルバーウィークで5連休です。ヤッター！！(*^*)でも台風が接近して雨が続きそうです。。。お天気がよくなるとよいですね！！
- **土屋君**…久しぶりの雨なしの例会となりました。本日は瀬田さん、卓話宜しく願い致します。

合計 26,000 円 累計 812,468 円

卓 話



9月17日（木）の卓話は、弘和印刷株式会社 代表取締役社長 瀬田章弘氏より「印刷業界の課題と進化」という演題でお話いただきました。

紹介者：プログラム委員会

オープン例会

10月29日（木）12:30～13:45 上野精養軒

卓話：QRコード開発者 原昌宏氏

本日の卓話

「数字で読み解くトラック輸送」
カーゴニュース 編集長
石井麻里氏

紹介者：プログラム委員会

クラブ支援米山奨学生 合格

周子楠さんは、2026年10月採用クラブ支援奨学金（延長制度）申請は、ロータリー米山記念奨学会選考・学務委員会の承認を経て常務理事会において審議の結果、合格が承認されました。子楠さんは、東京大学卒業までに博士をとるために勉学に励まれています。

奨学生レポートご紹介

四年間暮らして見えてきた「下町」／周子楠

東京に来た時、本郷キャンパスの周辺を調べて、上野の近くに住むことにした。最初の理由はとても単純で、交通が便利で、店も多く、いつも人がいるからだった。一人で外国に暮らすので、病気になった時や悪天候の時にも、便利な場所の方が安心だと思った。しかし、四年間暮らしているうちに、便利さとは別に、この町そのものが好きになった。

毎日、本郷へ行く時には坂を上る。東京の「下町」が低い土地にあり、「山の手」と地形的にも違っていたことを知ってから、いつもの坂も少し違って見えるようになった。自分が住んでいる御徒町という名前も、江戸時代の「御徒」という下級武士に由来すると知った。日本人の友人に話したら、知らなかったと驚かれたこともある。普段何気なく通っている道や地名の中に、江戸時代が残っているのが面白い。

私は原宿や表参道のような、おしゃれな店が集まる場所より、上野のような町の方が好きだ。細い道に店が並び、昔からある商店街には、今ではあまり見かけない万年筆屋や呉服屋もある。古いものが博物館の中だけに保存されているのではなく、その横で今も人が買い物をし、働き、生活している。

下町風俗資料館では、大正時代の不忍池周辺が今以上に賑わっていたことを知った。博覧会が開かれ、池の上にはロープウェーまで設けられていたという。今の落ち着いた不忍池を歩いていると、当時ここが大勢の人が集まり、店や見世物を楽しんでいた様子を想像してしまう。上野公園を歩いている時も、黒門があった頃の寛永寺や、昔ここを歩いていた人たちの姿を時々想像する。

東京は新しい建物が次々にでき、絶えず変わっていく大都市である。それでも上野では、昔の町の跡を残したまま、その上で今の生活が続いている。谷中や浅草を歩いた時にも、似たような感じがした。四年前には便利だから選んだだけの場所だったが、今では、この少し古くて、賑やかで、人の生活がよく見える町に住めてよかったと思っている。

次週の卓話 10/15

小倉鉄工株式会社 代表取締役社長
小倉哲也氏

紹介者：プログラム委員会